

幼稚園創立90周年の年にあたって

あ の こ ろ

黒 崎 義 介

私は明治四四年平戸町立幼稚園（現平戸市立幼稚園）の第一回卒業生です。

園児時代の記憶は殆んど薄れてただ六つ違いの妹の園児の記憶が少しある位です。

建物は城内の足輕長屋を改造したもので、ガラス戸でなく障子でした。園児も十名位

で、洋服を着ているものはなく、先生はもちろんみんな着物を着ていました。その頃

童謡など無かった時代ですし、「タコタコアガレ」、「白地に赤くの口の丸のうた」、

「金太郎」、「桃太郎」位で、小さなオルガンが一つあったように憶えております。

何しろ平戸は九州長崎県の北端の小さな離れ小島の辺地なので都会の匂いは皆無と

いってよい位の処でした。絵本も、もっともまだこの時代は全国的に無かった時代

で、手をつないで遊びをしたり、折り紙をする位が最上だったように覚えています。

鉛筆などもほんとうに貴重な時代で短くなると竹にさし込んで最後まで使ったもの

です。

日露戦争の直後なので画報が唯一の絵本だったようです。そして今の子どもが自動車や乗り物を好むように、軍艦ばかり描いていました。今の三つ位の子どもが車の種類が判るように軍艦の名をよく覚えていました。

私が絵本を始めて見たのは、私が小学一年のとき叔父が三年のドイツ留学より帰朝の折り、あちらの絵本を二冊ほどお土産にもらった時、色刷りの絵本をはじめ初めて、寝る間も離さず本の形をなさないまで見たり写したりしたことを覚えています。

日本の子ども雑誌をはじめ見たのは小学三年の時長兄が東京の大学へ入り、夏休みに、忘れましたが「良友」かなにかお土産にもらったのがはじめてで、もう四年になると「日本少年」を毎月購読していました。中学の三年頃でしたか、佐世保市へ軍艦の進水式見学に行った折り、街の本やで「コドモノクニ」を見た時は胸がわくわくしたことを今だに覚えています。（童画家）